

環境経営レポート

[2023年度 2023/4~2024/3]



株式会社 ユウキ工業

2024年6月20日

1. 株式会社ユウキ工業の事業概要

(1) 事業者名及び代表者名

株式会社 ユウキ工業
代表取締役社長 北澤 芳恵

(2) 所在地

〒252-0254 神奈川県相模原市中央区下九沢 1093-1

(3) 対象範囲 : 全社 全組織

金属加工部品の製造及び販売

(4) 環境管理責任者

北沢 隆和

(5) 担当者連絡先

〒252-0254 神奈川県相模原市中央区下九沢 1093-1

連絡担当者: 北沢 隆和

T E L : 042-700-8070 F A X : 042-779-8702

E-mail : info@yuki-k.co.jp

(5) 事業概要 (2024年4月1日現在)

①主な事業: 金属加工部品の製造及び販売

②資本金: 1000万円

③従業員数: 27人

④床面積: 998.27 m²

⑤生産量

	2021年度	2022年度	2023年度
生産量 (トン)	164	133	165



2. 環境経営方針

－株式会社ユウキ工業 環境経営方針－

当社は、金属加工部品の製造業者として、地球環境・地域環境に配慮し、環境保全活動を推進し、次に示す環境経営方針を定める。

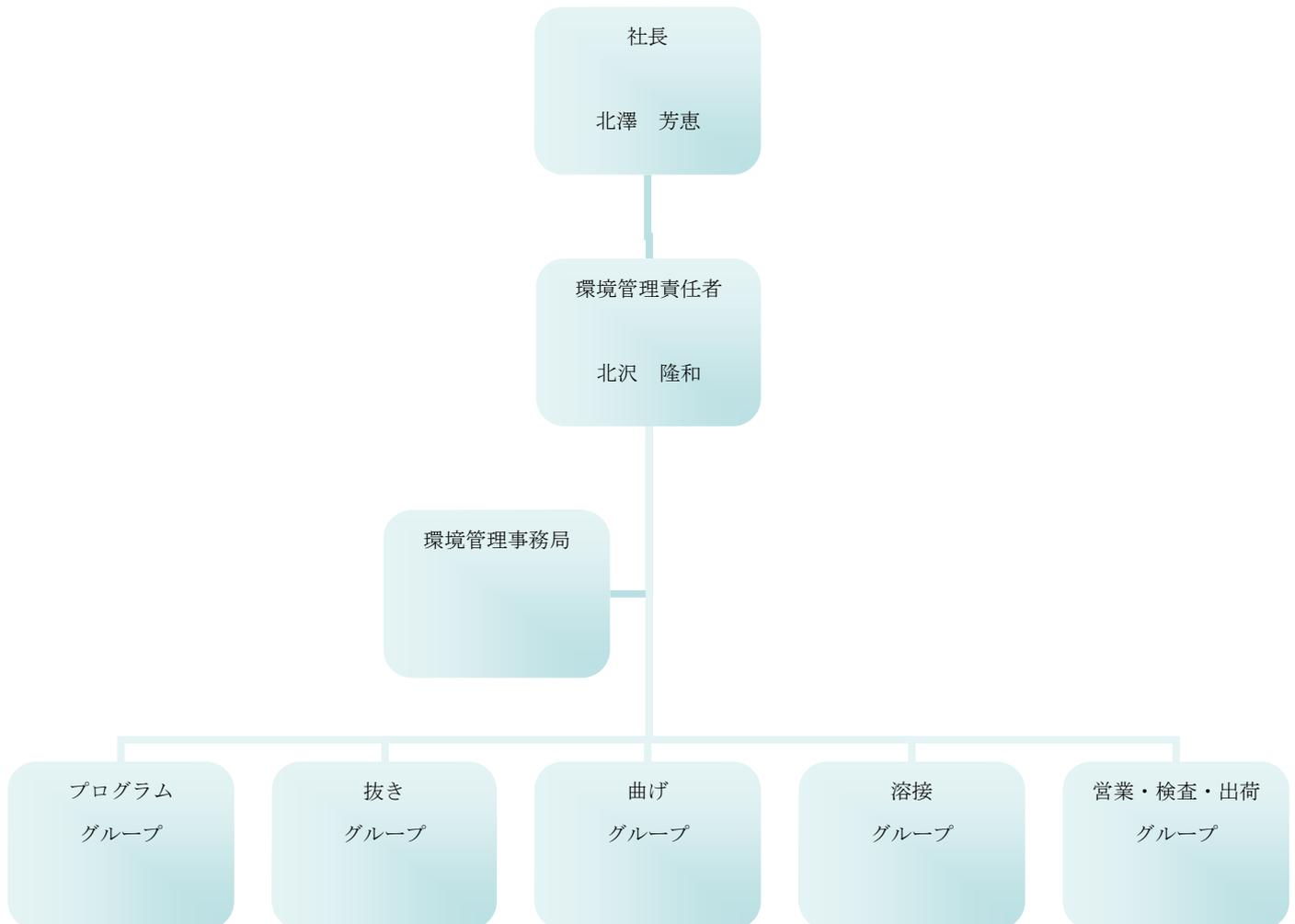
1. 環境目経営標を設定し、主に以下の項目を取組むことによって、環境負荷を改善する。
 - (1) 廃スクラップ金属の削減
 - (2) 不良削減
 - (3) 可燃ゴミの削減
 - (4) 電力使用量の削減
 - (5) ガソリンの使用量削減
2. 関連する環境関連の法規制、条例及びその他の要求事項を順守する。その他の要求事項では、有害物質含有禁止に関する顧客要求に対し、管理を徹底して遵守することを重点項目とする。
3. 環境経営システムを確立し、見直しを行って、その継続的改善及び汚染の予防を行い、維持する。
4. 従業員に教育を行い、全員参加による環境保全活動を実行する。
5. 環境経営方針を含めて記述した環境経営レポートを作成し、利害関係者等からの要求に応じて配布、公表し、社内外への情報提供を行うことによって、積極的な環境コミュニケーションに取り組む。

2020年6月15日改訂
株式会社 ユウキ工業
代表取締役社長 北澤 芳恵



3. 環境経営システム組織体制

株式会社ユウキ工業 環境経営システム組織図
(2024年4月1日現在)



4. 環境負荷実績

項目	2021年度	2022年度	2023年度
CO ₂ 排出量(kg-CO ₂)	151,488	165,514	157,694
水使用量 (m ³)	424	426	437
廃棄物等排出量 (t)	58.53	53.42	62.52
総物質投入量 (t)	226	189	228

電力のCO₂排出係数は「0.441kg-CO₂/kwh」(2020年度 東京電力エナジーパートナー(株)調整後排出係数)を使用。



5、環境経営目標

株式会社ユウキ工業 2023 年度～2025 年度 環境経営目標

大項目	項目名	2023 年度	2024 年度	2025 年度
廃棄物削減	金属スクラップの削減	購入金属材料に対する金属スクラップ比率を25%以下にする (2008 年度 13.74%)	購入金属材料に対する金属スクラップ比率を24%以下にする (2008 年度 13.74%)	購入金属材料に対する金属スクラップ比率を23%以下にする (2008 年度 13.74%)
〃	不良削減	月平均の発生件数を前年度実績より 3 件減らす。	月平均の発生件数を前年度実績より 3 件減らす。	月平均の発生件数を前年度実績より 3 件減らす。
〃	可燃ごみの削減	2022 年度対比 1%削減とする	2023 年度対比 1%削減とする	2024 年度対比 1%削減とする
CO2 削減	ガソリンの使用量の削減	2022 年度対比 総量 1%削減	2023 年度対比 総量 1%削減	2024 年度対比 総量 1%削減
〃	電力使用量の削減	売上高当り 2022 年度実績に対し、1%削減	売上高当り 2023 年度実績に対し、1%削減	売上高当り 2024 年度実績に対し、1%削減
〃	CO2 総排出量削減	2022 年度比 1%削減	2023 年度比 1%削減	2024 年度比 1%削減
節水	水使用量の削減	2022 年度対比 現状維持とする	2023 年度対比 現状維持とする	2024 年度対比 現状維持とする
その他	5S 活動の推進 健康経営	5S 活動の 継続実施 ラジオ体操の継続	継続実施	継続実施
化学物質削減	洗浄液の代替品 検討	代替品の調査	代替品の調査	代替品の調査

※「化学物質削減」に関し、PRTR 法対象物質については、少量使用している。使用量削減より「代替」を目指しており、数値目標を設定していない。



6. 主要な環境経営計画の取り組み内容

株式会社ユウキ工業 2023 年度 環境経営計画の主な実施項目

項目名	主な施策
金属スクラップの削減	<ul style="list-style-type: none"> ・作業標準書見直し ・作業改善を図る
不良削減	<ul style="list-style-type: none"> ・不良件数の削減
可燃ごみの削減	<ul style="list-style-type: none"> ・分別の徹底
ガソリンの使用量の削減	<ul style="list-style-type: none"> ・効率の良い運行をする
電力使用量の削減	<ul style="list-style-type: none"> ・エネルギー・水使用がトラインの実践（エアコンの管理、照明の管理、待機電力の管理等） ・節電の管理 ・作業標準書見直し ・不良削減 ・作業改善を図る ・機械メーカーによる設備メンテナンス及び各担当者による設備メンテナンスによる生産効率向上
CO2 排出量の削減	<ul style="list-style-type: none"> ・電気量・灯油・ガソリン使用量の削減
水使用量の削減	<ul style="list-style-type: none"> ・エネルギー・水・紙の使用がトライン(YE-0802)の実践（台所・トイレの節水、掃除時の節水等）
社内エコ活動・健康経営	<ul style="list-style-type: none"> ・5S 活動の継続実施 ラジオ体操実施
化学物質削減	<ul style="list-style-type: none"> ・代替品の調査



7 環境経営目標及び環境経営計画の取組結果の実績と評価
及び次年度の環境経営目標及び環境経営計画

株式会社ユウキ工業 2023 年度の取組結果と評価

No.	実施項目	評価	目標達成度	実施内容と分析、是正・予防処置
1	廃金属スクラップの削減	×	目標： スクラップ率 25%以下 2023 年度実績： 27.4%	期の前半は順調に削減結果を出す事が出来ていたが、下期に掛けて端材を多く排出するパイプ加工等が増加した事が要因と思われる。次年度は都度加工方法を検討し、作業性と歩留まりを考慮した内容で削減へと繋げたい。
2	不良削減	×	目標:月発生件数を前年度 実績 3 件減) 2022 年度実績: 月 4.8 件増加 2023 年度実績: 月 0.8 件増加	大きな不良は減少傾向に向かって いるものの、注意すれば防ぐ事が 出来る内容が多発している。 一人一人の削減意識を強化する為 全体朝礼での不良報告や毎月の不良 発生纏め表を活用し、凡ミス対策を 強化する。
3	可燃ごみの削減	○	目標：2022 年度排出実績 に対して 1%削減 2023 年度実績: 13%削減 2022 年度 752.4kg 2023 年度 652.6kg	更なる分別の徹底が削減へと繋がった。しかし、ヒアリングの結果 分別に困惑するゴミがある事も判明 した。更なる削減へ向けて、細かな 分別を徹底していきたい。
4	社用車ガソリン 使用量の削減	○	目標：2022 年度比総量 1%削 減 2023 年度実績: 18%削減 2022 年度: 3,137.9ℓ 2023 年度: 2,560.7ℓ	年度全体に於いて、効率の良い ルートでの納品等が実施出来た。 12 月に社内に於いては、初めての ハイブリッド車への入替を行った 結果、予想を上回る数値となった。 次年度に於いても、効率の良い走行 やエコドライブを意識していきたい。



5	電力使用量の削減	○	<p>目標：売上高当り 2022 年実績に対し、1%削減</p> <p>2023 年度実績： 5%削減</p> <p>2022 年度：0.64kwh/千円</p> <p>2023 年度：0.61 kwh/千円</p>	<p>年間を通して、節電の意識が高まった結果となった。年間の最大電力も大幅に下げることが出来、節電の意識と機械の省電力化が結果に寄与した。</p> <p>次年度も油断する事なく継続して行く。</p>
6	CO2 排出量の削減	○	<p>目標：2022 年度比 1%削減</p> <p>2023 年度実績： 8%削減</p> <p>2022 年度：165,514 Kg-CO2</p> <p>2023 年度：152,586 Kg-CO2</p>	<p>年間を通して電気、ガソリン使用量が削減した結果と思われる。</p> <p>冬季の灯油使用量の増加が懸念材料ではあったが、灯油の使用量も削減となった。CO2 排出量の大半を占める電気については、全ての機械に必要な事から、受注量に応じて変化していく中で、他の節電等を心掛け次年度も活動を継続する。</p>
7	水使用量の削減	×	<p>目標：2022 年度対比現状維持(総量)</p> <p>2023 年度実績： 3%増加</p> <p>2022 年度：426 m³</p> <p>2023 年度：437 m³</p>	<p>製品の洗浄作業の増減は受注内容に応じて大きく変化し、思う様に節水に繋げる事は困難ではあるものの生活排水に於いては、日々の心がけで変化すると思われる。</p> <p>次年度は手洗い用水栓に自動栓の導入を検討し、節水の呼び掛けを行っていききたい。</p>
8	社内エコ活動 健康経営	○	<p>5 S 活動の推進</p> <p>ラジオ体操実施</p>	<p>健康経営の情報提供を定期的に行う事が出来た。</p> <p>ラジオ体操、5 S 活動も継続実施する事が出来ている。</p> <p>次年度も同内容の活動を継続する。</p>
9	化学物質削減	△	<p>洗浄液の代替品を検討</p>	<p>調査はしているものの、思うような洗浄液を探し出す事が出来ていない。</p> <p>下期に一部導入した溶剤の活用が効果を表すか、検証していききたい。</p>



8. 次年度の環境経営目標

大項目	項目名	2024 年度	2025 年度	2026 年度
廃棄物削減	金属スクラップの削減	購入金属材料に対する金属スクラップ比率を24%以下にする (2008 年度 13.74%)	購入金属材料に対する金属スクラップ比率を23%以下にする (2008 年度 13.74%)	購入金属材料に対する金属スクラップ比率を22%以下にする (2008 年度 13.74%)
〃	不良削減	月平均の発生件数を前年度実績より 3 件減らす。	月平均の発生件数を前年度実績より 3 件減らす。	月平均の発生件数を前年度実績より 3 件減らす。
〃	可燃ごみの削減	2023 年度対比 1%削減とする	2024 年度対比 1%削減とする	2025 年度対比 1%削減とする
CO2 削減	ガソリンの使用量の削減	2023 年度対比 総量 1%削減	2024 年度対比 総量 1%削減	2025 年度対比 総量 1%削減
〃	電力使用量の削減	売上高当り 2023 年度実績に対し、1%削減	売上高当り 2024 年度実績に対し、1%削減	売上高当り 2025 年度実績に対し、1%削減
〃	CO2 総排出量削減	2023 年度比 1%削減	2024 年度比 1%削減	2025 年度比 1%削減
節水	水使用量の削減	2023 年度対比 現状維持とする	2024 年度対比 現状維持とする	2025 年度対比 現状維持とする
その他	5S 活動の推進 健康経営	継続実施	継続実施	継続実施
化学物質削減	洗浄液の代替品 検討	代替品の調査	代替品の調査	代替品の調査



9. 環境関連法規への違反

(1) 該当環境関連法規と違反状況, 及び訴訟等の有無

No.	法規制等の名称	評価	違反内容
1	下水道法及び 相模原市下水道条例	○	なし
2	廃棄物処理法	○	なし
3	相模原市廃棄物の減量化、資源 化及び適正処理等の推進に関 する条例	○	なし
4	騒音規制法 及び神奈川県生活環境の保全 等に関する条例	○	なし
5	振動規制法 及び神奈川県生活環境の保全 等に関する条例	○	なし
6	家電リサイクル法	○	なし
7	自動車リサイクル法	○	なし
8	消防法 及び 相模原市火災予防条例	○	なし
9	相模原市開発事業基準条例	○	なし
10	神奈川県生活環境の保全等に 関する条例	○	なし
11	高圧ガス保安法	○	なし
12	RoHS 指令	○	なし
13	グリーン調達基準	○	なし
14	フロン排出抑制法	○	なし
15	労働安全衛生法	○	なし
16	自動車 NOx.PM 法	○	なし

上記の通り環境関連法規への違法はありませんでした。

なお、関係当局よりの違反等の指摘は過去3年間ありません。又、訴訟等もありません。



10. 代表者による全体評価と見直しの結果(2024年6月18日)

(1) 環境経営方針

環境経営方針は継続する。

(2) 環境経営目標及び計画

前年度と比べ、目標未達成項目が減少した事は活動の継続性の結果と思われる。しかし、例年通り受注内容に応じて大きく変化する内容が多い為、更なる意識付けは必要である。

(3) 社会・取引先・法律等への対応

法規制については年間を通じて遵守できた。新たな法規制や変更点があれば情報を入手し、対応できる体制を維持する。

(4) 実施体制及びシステムのその他の要素

今年度は事務局メンバーを継続活動とした。2年目の活動となり積極的な意見を聴取する事が出来た。次年度はメンバーの交代を行い、新たな意見を取り入れ活動を継続して行く。

以上

